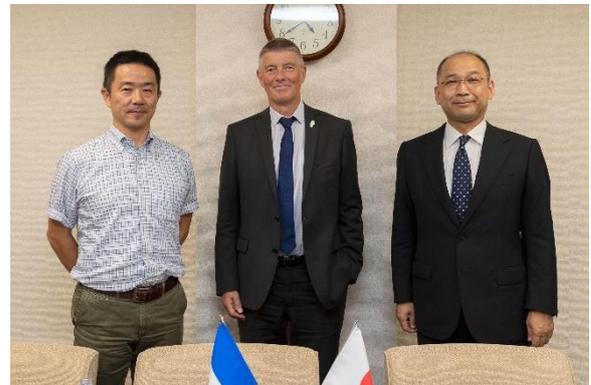


2019年9月30日 パスツール研究所 所長来訪

訪問者

パスツール研究所 Stewart Cole 所長

9月30日（月）、パスツール研究所の Stewart Cole 所長が医科研を訪問されました。Cole 所長が2018年1月に所長に就任されてから初の来訪となりました。山梨裕司所長から医科研の概要や取り組みについて紹介をした後、Cole 所長、山梨所長、石井健教授で、両研究所が推進する免疫学分野の共同研究ユニットに関する現状と展望、並びに今後の研究所間交流のさらなる強化について懇談がなされました。



2019年3月1日アラビア湾岸諸国立大学大学院 院長ら来訪

訪問者

アラビア湾岸諸国立大学大学院 Mohamed Dahmani Fath Allah 大学院長

SBI ファーマ株式会社 CTO 田中徹 取締役

SBI ファーマ株式会社 CSO 中島元夫 取締役

ネオファーマジャパン株式会社 河田聡史 代表取締役

3月1日（金）、アラビア湾岸諸国立大学大学院長の Mohamed Dahmani Fath Allah 教授が、SBI ファーマ株式会社田中徹取締役、中島元夫取締役、ネオファーマ株式会社河田聡史代表取締役社長とともに医科研を訪問され、Mohamed Dahmani Fath Allah 大学院長より、村上善則所長、谷憲三郎特任教授に、バーレーンにおける医療について、アラビア湾岸諸国立大学における医学研究の現状についてご説明を頂きました。また、初めて来訪される大学院長に対し、医科研の概要を説明した後、国際学術交流協定の更新と今後の交流展望について懇談されました。一行は懇談後、バイオバンク・ジャパンを見学し、仕組みや運営について、森崎隆幸特任教授より説明を受けました。



The UTokyo NY Conference 2018 (於：ニューヨーク)

東京大学ニューヨークオフィス主催、医科学研究所・生産技術研究所共催による“The UTokyo NY Conference 2018”が、2018年11月3日(土)、ニューヨークの日本クラブタワーで開催され、在米の大学・研究機関、様々な分野の企業・団体等から多数の方々にご列席いただきました。

カンファレンスは、医科学研究所村上善則所長と東大 NY オフィス桑間雄一郎副理事長の開会挨拶で幕を開け、医科研村上善則所長、生産技術研究所福谷克之副所長による各研究所の紹介へと続きました。講演会では、医科研清野宏特任教授より“Rice became a vaccine”のタイトルで、コメを用いた次世代型経口ワクチン(MucoRice)の開発と臨床応用についてお話がありました。続いて医科研山梨裕司教授から“Targeting neuromuscular synapses as a new therapeutic approach for muscle weakness and atrophy”と題して、*筋萎縮性側索硬化症(ALS)*などの神経筋疾患に対する新しい遺伝子治療法の開発について講演が行われました。

休憩後の第2部では、マウント・サイナイ・アイカーン医科大学の Thomas Zwaka 教授が“The unreasonable effectiveness of pluripotent stem cells: mechanism and mechanics”と題して、多能性幹細胞の有効性や最近注目されているジカウイルス感染症の病態解析などに関する最新の知見を披露されました。次に、同じくマウント・サイナイ・アイカーン医科大学の Miriam Merad 教授が、“Harnessing the Tumor microenvironment to enhance cancer care”のタイトルで、がんの微小環境とがん免疫療法に関する最先端のデータを紹介して下さいました。最後に生研谷口維紹特任教授から、“The role of dead cell-derived molecules in the progression of inflammatory disease and cancer: Implications for the development of new therapeutic approaches.”と題して、炎症性疾患や癌に対する新しい治療法の開発についてご講演がありました。

いずれの講演も参加者にとって非常に興味深い内容であり、質疑応答の時間が不足する程、活発な討議が交わされました。

最後に生研福谷副所長による閉会の辞を持って、カンファレンスは盛会のうちに終了致しました。カンファレンス後のレセプションにも多くの方にご参加頂き、研究領域の垣根や国境を越えた新たな出会いと交流が生まれ、今後のニューヨークオフィスの更なる活用が期待される有意義なものとなりました。



《医科学研究所 清野宏特任教授による講演》



《医科学研究所 山梨裕司教授による講演》



《Thomas Zwaka 教授
(Icahn School of Medicine at Mount Sinai)》

《Prof. Miriam Merad
(Icahn School of Medicine at Mount Sinai)》





《生産技術研究所 谷口維紹特任教授》



《演者・関係者による集合写真》

2018年10月 さくらサイエンスプラン 中国訪日団 来訪

日 程：2018年10月7日～13日

訪問者

中国科学院微生物研究所 9名

中国科学院北京生命科学研究院 3名 計 12名

科学技術振興機構（JST）の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」を利用して、中国から若手研究者12名が2018年10月7日（日）から7日間の日程で医科学研究所に来訪されました。来訪者は、中国科学院微生物研究所9名、中国科学院北京生命科学研究院より3名の計12名でした。

到着翌日は、日本科学未来館を訪れ、ロボット、地球環境、宇宙についてなど、最新の科学技術を体感しました。

10月9日朝から医科研を訪れた一行は、所長室にて村上所長、川口寧副所長、井上純一郎教授、林光江特任教授らと懇談、その後所内見学として、先ずバイオバンク・ジャパンを訪れ、森崎特任教授からその施設や運営方法について説明を受け、血清バンクと組織バンクを見学しました。午後より感染症 Workshop に参加し、中国の若手研究者3名も研究発表を行いました。参加者が80名を超える盛会なものとなりました。

10月10日は、医学系研究科生体構造学分野を訪れ、吉川雅英教授より研究・クライオ電顕拠点について紹介をいただき、クライオ電子顕微鏡など施設の見学、意見交換を行いました。午後より医科研の施設見学として、近代医科学記念館を見学し、スーパーコンピューター室では、山口類講師から、施設とプロジェクトの紹介を受けました。その後、河岡研究室 P3 施設を今井正樹准教授、岩附研子助教にご案内・ご説明をいただき、MucoRice 栽培施設にて、鹿島光司研究員にご説明をいただきました。

10月11日は、国立感染症研究所を訪問、研究所の概要について説明をいただき、エイズ研究センターの施設を見学しました。午後は感染病理部を訪問し、来訪者各自、自己紹介と各自の研究についてプレゼンテーションを行いました。

10月12日に一行は、オリックス株式会社への企業訪問を行い、オリックスの中国における活動と今後の展望について意見交換をした後、AMEDの岩本愛吉先生を訪問しました。ここでもこれまでの中国との関りとその歴史について説明を受けました。

今後益々相互に訪問する機会が増え、日本と中国における若手研究者の親交がさらに深められることを期待しています。



2018年7月 中国 CDC の若手研究者 来訪

2018年7月10日

訪問者

中国疾病予防管理センター (China CDC)

- ・国立ウイルス病予防管理研究所 3名
- ・国立伝染病予防管理研究所 2名
- ・国立エイズ/性感染症予防管理研究所 1名
- ・国立栄養健康研究所 1名
- ・国立環境衛生研究所 1名
- ・全国予防接種プログラム 1名
- ・疫学局 1名
- ・科学技術局 1名

科学技術振興機構のさくらサイエンスプランを利用して国立感染症研究所を訪問している中国 CDC の若手研究者 11 名が、医科研に来所されました。

一行はまず近代医科学記念館において、北村俊雄教授より医科研の歴史や記念館展示資料について説明を受けました。次に、中国拠点プログラムの研究代表である川口寧副所長からプロジェクトについてご紹介頂きました。その後、ウイルス感染分野の P3 実験室の設備を見学し、今井正樹准教授、岩附（堀本）研子助教より施設の運営についてご説明頂きました。現在医科研で研究されている感染症等について熱心に質問をされていました。

2018年6月 ガーナ大学野口記念医学研究所長 来訪

2018年6月6日

訪問者

- ・ Prof. Kwabena Mante Bosompem, : DIRECTOR of Noguchi Memorial Institute
for Medical Research
- ・ Dr. 石川晃一 国立感染症研究所エイズ研究センター第1室 主任研究官

6月6日(水)、ガーナ大学野口記念医学研究所長の Kwabena Mante Bosompem 教授が国立感染症研究所エイズ研究センター石川晃一主任研究官とともに医科研を訪問され、村上善則所長、清野宏特任教授、俣野哲郎委嘱教授らと、今後の共同研究の展望について懇談されました。その後、バイオバンク・ジャパンのDNAバンクを見学し、仕組みや運営について森崎特任教授より説明を受けました。次にヒトゲノム解析センターへ移動し、山口類准教授からスパコン施設とプロジェクトの紹介を受けました。最後に経口ワクチン「MucoRice」のイネ栽培設備を見学し、鹿島光司客員研究員より説明を受けました。

今回はとても短い時間での見学でしたが、Bosompem 所長はスパコンに大変興味を持たれたようで熱心に質問をされていました。

~~~~~

## **2018年5月 中国科学院本部訪問団 来訪**

2018年5月18日

訪問者

- 中国科学院(本部)科技促進発展局 孫 命 副局長
- 中国科学院(本部)科技促進発展局 生物技術処 曾 艷 副研究員
- 中国科学院 微生物研究所 劉 双江 所長
- 中国科学院 微生物研究所 微生物資源・ビッグデータセンター 馬 俊才 主任
- 中国科学院 微生物研究所 科技処外事事務 李 薇 主管

2018年5月18日(金)午後、中国科学院(本部)科技促進発展局の孫 命 副局長ら5名の訪問団が表敬訪問されました。

一行はまず近代医科学記念館を見学の後、バイオバンク・ジャパンのDNAバンク、血清バンク、組織バンクを見学し、仕組みや運営について松田浩一教授より説明を受けました。

その後、村上善則所長、中国拠点研究代表 川口寧副所長、アジア感染症中国拠点 松田善衛特任教授・林光江特任教授・合田仁特任講師らと今後の共同研究の展望について話し合いが行われました。

## 2018年5月 中国科学院生物物理研究所 XU 所長 来訪

2018年5月16日

訪問者

中国科学院 生物物理研究所 許 瑞明 所長

中国科学院 生物物理研究所 許 航 研究・技術処長

2018年5月16日（水）午後、中国科学院生物物理研究所長 許 瑞明（Xu Ruiming）教授および同研究所 許 航（Xu Hang）研究・技術処長が表敬訪問されました。

一行はまず近代医科学記念館を見学の後、森崎隆幸特任教授からバイオバンク・ジャパンの組織バンクの仕組みや運営についての説明を受け、施設を見学しました。その後、会議室において村上善則所長、中国拠点研究代表 川口寧副所長、北京拠点長 井上純一郎教授、吉池邦人客員教授、アジア感染症中国拠点 松田善衛特任教授・林光江特任教授らと今後の共同研究の展望について話し合いが行われました。その後、ヒトゲノム解析センターへ移動し、山口類准教授からスパコン施設とプロジェクトの紹介を受けました。

## **2018年5月 インドネシア地方議会ほか訪問団 来訪**

2018年5月8日～9日

訪問者

### **East Java Legislative Council (DPRD) Commission E**

Mr. Hartoyo Hartoyo /Head, Mr. Suli Da'im/Vice Head, Mr. Sumito Machmudi/Staff  
Mr. Agus Dono Wibawanto/Staff, Mr. Kusni Muh. Husni/Staff, Mr. Moch. Eksan/Staff  
Ms. Yayuk Padmi Rahayu/Staff, Ms. Ma'mulah Harun/Staff, Mr. Muhammad Siroj/Staff  
Ms. Agatha Retnosari/Staff, Mr. Artono Artono/Staff

### **Menur Psychiatric Hospital**

Ms. Sri Agustina Andriani/Director, Ms. Endah Ikthitiarini/Head of Finance Department

### **Soedono General Hospital**

Mr. Sukaryo Sukaryo/General & Finance Vice Director  
Mr. Hendrian Dwikoloso Soebagjo/Medical Support Vice Director

### **Syaiful Anwar General Hospital**

Mr. Sjaichul Ghulam/General & Finance Vice Director  
Mr. Moch. Soleh/Head of Finance Department

インドネシア訪問団 17 名が医科研に来所されました。

今回の訪問は、日本の医療と病院の現状の視察を目的とするもので、東ジャワ島地方議員、研究者、病院管理職を務める方々が、2018年5月8日（火）～9日（水）の二日間にわたり訪問されました。

1 日目は、近代医科学記念館において、北村俊雄教授より医科研の概要や記念館展示資料について説明を受け、その後、先端癌治療分野・脳腫瘍外科の稲生靖准教授より癌のウイルス療法について、また、セルプロセッシング・輸血部の長村登紀子准教授より臍帯血・臍帯バンクの説明を受け施設を見学しました。

2 日目は、医科研附属病院の四柳宏副院長より附属病院の紹介を受け、病院運営から日本の医療政策等についてなど、幅広い話題でディスカッションを行いました。午後には、ウイルス感染分野の P3 実験室の設備を見学しました。各説明後には、訪問団メンバーから活発な質問があり、たいへん興味を持たれた様子でした。今回のご来訪を通して、医科研の先進的な医療・研究の一端が広くインドネシアの学術・行政機関関係者に紹介されたことで、さらなる交流発展が期待されます。

## 2018年4月 シンガポール科学技術庁ほか視察団 来訪

2018年4月17日

訪問者

Prof. Tai Shyong (シンガポール国立大学病院内分泌学科シニアコンサルタント)

Mr. Lim Wee Seng (南洋工科大学衛生研究センター専務理事)

Dr. Sarah Chang (シンガポール科学技術庁国際交流政策企画室長)

Ms. Claire Ng (シンガポール科学技術庁国際交流政策企画室)

2018年4月17日(火)午前、シンガポール国立大学病院、シンガポール科学技術庁等より4名の視察団が来所されました。

当日一行は、村上善則所長、川口寧副所長、加藤貴彦事務部長と懇談し、医科研の概要について紹介を受け、その後、バイオバンク・ジャパンの組織バンク、血清バンク、DNAバンクを見学し、松田浩一教授から最新の研究内容について紹介を受けました。



## **留学生・外国人研究者のための交流会 開催**

2月22日(木)、医科研内の近代医科学記念館で、留学生・外国人研究者のための交流会を開催しました。当日は、留学生12名、外国人研究者5名、教職員等7名の合計24名が参加しました。

交流会は、国際交流委員長の渡邊すみ子先生の挨拶と乾杯で始まりました。留学生、研究者、教員が、各自で準備したスライド使って自己紹介をし、留学生・研究者からは医科研周辺のおすすめレストランや好きな映画、アニメ、散歩場所などが発表され、笑いの絶えない会になりました。

記念館内のカポ・ペリカーノの食事を楽しみながらの2時間はあっという間でしたが、帰り際には、連絡先を交換する留学生らの姿も見られました。

今回の交流会が医科研で研究活動を行う外国人同士のネットワーク構築の一助となることが期待されます。



## 2018年2月 英国 UCL と遺伝子治療分野ベンチャー企業視察団 来訪

2018年2月21日、英国 University College London 産学連携担当者と遺伝子治療分野のベンチャー企業の代表者の計15名の視察団が英国大使館職員、視察ツアー会社担当者と共に医科研に来所されました。

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)は、1826年に設立された、約4万人の学生を有する総合大学で、最近では常に世界大学ランキングで10位以内に入っています。今回は、遺伝子治療分野のベンチャー企業14社と共に、日本における細胞治療・遺伝子治療の現状視察を目的に来訪されました。この訪問は東京大学 TR 機構（トランスレーショナル・リサーチ・イニシアティブ）の協力によって実現しました。

当日一行は、まず、東大発の細胞治療関連ベンチャー企業1社の概要を聞き、続いて村上善則所長から医科研の概要について説明を受けました。その後、小澤敬也医科研病院長から医科研における遺伝子治療について、また、長村登紀子准教授から同じく細胞治療について説明を受けました。

今回の訪問で医科研と UCL および英国企業との結びつきが深められることが期待されます。



## 2018年1月 ノルウェーのベルゲン大学医学部長ほか3名 来訪

2018年1月29日、ノルウェーのベルゲン大学のペル・バッケ医学部長、在東京ノルウェー大使館ベルゲン大学およびノルウェー科学技術大学日本代表のヒロシ・マツモト博士、ベルゲン大学研究マネジメント課シニア・アドバイザーのビョルン・エイナール・アース氏が、医科研に来所されました。

ベルゲン大学は、ノルウェー第2の都市ベルゲンにある学生総数19,000人を擁する大学で、1946年に設立されました。今回の訪問は、医科研との研究協力についての会談を目的としていました。

当日一行は、村上善則所長、武川睦寛副所長、幹細胞治療研究センターのベアーテ・ハイジツヒ准教授と懇談し、医科研の概要について紹介を受けました。また、バッケ医学部長から、現在、同大学医学部がハイジツヒ博士と行っている共同研究を高く評価しており、今後両機関の研究協力をさらに発展させて行きたいとの希望が述べられました。

今回の訪問で医科研とベルゲン大学との結びつきが深められることが期待されます。



## 2017年12月 アラブ首長国連邦（UAE） 幸福・研究担当国務大臣ら 来訪

2017年12月21日、アラブ首長国連邦（UAE）からオフード・アル・ルーミー幸福・研究担当国務大臣兼総理府総務長官ら政府関係者6名が医科学研究所を訪問されました。アラブ首長国連邦は政府が医療市場の拡大を経済成長の柱にしようとしています。（JETRO HPより）

今回は、本所の炎症免疫学分野長・国際粘膜ワクチン開発研究センター長の清野宏教授と同じく国際粘膜ワクチン開発研究センターの植松智特任教授、ヘルスインテリジェンスセンターの井元清哉教授に、腸内フローラに関する研究、免疫、生活習慣防止、健康・幸福と腸内フローラとの関係について話を聞くことが目的でした。

腸内フローラを食物などによって整えることで、脳にも影響を与え、人々を幸福にできるかについての研究の現状と今後の進展についての説明があり、訪問団の面々は興味深く耳を傾けていらっしゃいました。

同国の医療研究において、本所の研究が貢献することが期待されます。



## 医科学研究所創立 125 周年・改組 50 周年記念国際シンポジウム 開催

2017 年 11 月 30 日に、医科学研究所講堂において、創立 125 周年・改組 50 周年記念国際シンポジウムが「医科学の新発見がもたらす医療のパラダイムシフト」のテーマのもとに開催されました。海外招待講演者として米国のメモリアル・スローン・ケタリング癌センターの Michel Sadelain 博士、国内招待講演者として大阪大学免疫学フロンティア研究センターの長田重一教授からの卓越した御講演に加え、中西真、河岡義裕、宮野悟の 3 名の医科研教授によるがん、感染症、ゲノム医科学領域の先端的研究成果が発表されました。参加者からの質問が相次ぎ、活発な議論で盛り上がりました。



2017年11月3日



The UTokyo New York Conference 2017 開催

報告記事は[こちら](#)

## リトアニア国立がん研究所(NCI)所長ら 5 名 来訪

2017 年 10 月 13 日、リトアニアの国立がん研究所(NCI)所長ら 5 名が、医科研に来所されました。

リトアニア共和国は、バルト海東岸に並ぶバルト三国の最南端に位置し、人口は約 300 万人です。首都はヴィリニウスです。

本所の谷憲三朗特任教授が、昨年リトアニアを訪問し、シンポジウムで発表しています。

来所されたのは国立がん研究所所長のほか、ヴィリニウス大学の教授、在日リトアニア大使館臨時代理大使などの 5 名でした。

当日一行は、村上善則所長、武川睦寛副所長、川口寧副所長、田中廣壽副所長、小澤敬也病院長、谷特任教授、植田清実事務部長と懇談し、医科研の概要について紹介を受け、その後、小澤病院長から医科研病院の概要を聞きました。

続いて、谷特任教授の開催するワークショップで本所の東條有伸教授、古川洋一教授、中西真教授、松田浩一新領域創成科学研究科メディカル情報科学専攻教授、谷健三郎特任教授と、がん研究に関する発表を行いました。

ワークショップの後はバイオバンクを松田教授が、セル・プロセッシング装置を谷特任教授が、ヒトゲノム解析センターを井元教授が、医科研病院を今井陽一准教授が案内し、最新の研究設備と研究状況を説明しました。

今回の訪問で、医科研と NCI との研究交流、共同研究等が一層発展することが期待されます。



## 2017年11月 ニューヨーク幹細胞財団との合同シンポジウム開催

東京大学ニューヨークオフィスを活用した国際学術交流の一環として、東京大学医科学研究所と生産技術研究所がニューヨーク幹細胞財団\*と合同で、シンポジウム“Tokyo - New York Stem Cell Summit”を開催しました。昨年末に移転したばかりの同財団の新しい研究所で、日米の研究者、企業関係者など約70名が参加し、幹細胞に関する最先端の研究成果について講演やポスター発表を行い、休憩時間中にも活発な議論が交わされました。

\*ニューヨーク幹細胞財団 (New York Stem Cell Foundation)：幹細胞研究による糖尿病、がん、アルツハイマー病など多様な病気の治療法の開発支援および幹細胞についての理解の増進を目指す非営利法人。2005年創立以来、寄附金による民間財団として多額の寄附を集め、目覚ましい研究成果をあげています。



ニューヨーク幹細胞財団

スーザン・L・ソロモン理事長の開会挨拶



講演者の記念撮影



ブレイク中も日米の研究者間で活発な議論が交わされました

## 2017年7月10日 韓国大邱カトリック大学学生 来訪

2017年7月10日、Jin-Kyung Kim 教授に引率された医生命科学専攻の学生たちが、炎症免疫学分野、ウイルス感染分野（福山聡特任准教授）、ヘルスインテリジェンスセンター（井元清哉教授）、バイオバンクジャパン（湯地晃一郎特任准教授）を見学しました。



## 2017年4月26日 中国科学院 張亜平副院長ら 来訪

2017年4月26日、中国科学院から張亜平副院長ら5名が医科学研究所を表敬訪問されました。中国科学院は、中国全土に124カ所の研究所があり、研究者数は56,000人、年間研究費は213億元(3000億円超)の、中国のハイテクと自然科学における代表的な科学技術研究の国家機関です。(2012年のデータ)

本所は2005年から中国科学院の生命科学系の研究所である、北京の微生物研究所及び生物物理研究所内に日中連携研究室を開設しました。2015年度からは日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受け、同研究所と「中国拠点を連携中心とした新興・再興感染症制御に向けた基盤研究」プロジェクトを実施しています。

訪問では、初めに村上善則医科研所長、武川睦寛副所長、川口寧副所長/研究代表、田中廣壽副所長、井上純一郎教授/北京拠点長、林光江特任教授と懇談し、本所の概要の説明と、今後の共同研究や本所との連携について話し合いました。

その後、一行はウイルス感染分野の河岡義裕教授研究室のP3A実験室や2光子顕微鏡の設備を見学し、分子形態学や遺伝学が専門の張副院長は活発に質問をされていました。

今後も本所が中国において中国科学院との連携を深め、日中の共同研究活動を発展させていくことが期待されます。



## 2017年4月6日 フランス科学技術高等研究院の研修団46名 来訪

2017年4月4日、フランス科学技術高等研究院(IHEST)の研修団46名が医科研に来所しました。

IHESTは、科学技術研究の目的や、その経済的・社会的・政治的課題についての教育と考察を行い、その分析結果を普及させることにより、研究とイノベーションに関する一般的な文化の形成を目指すフランスの公的行政法人(EPA)です。今回の研修は、「Common goods in Japan today, forms of innovation」と題し、研究、産学連携、イノベーション、防災、文化など、自然科学から人文系にまで及ぶ幅広い観点から、日本の現状を視察することを目的とするもので、フランスの研究者、行政官、企業人など、幅広い分野で管理職を務める方達が受講者として参加しました。

当日一行は、桜の咲き始めた所内の庭園や近代医学記念館で昼食を摂った後、村上所長から医科学研究所の概要について紹介を受け、その後、所内の研究施設を見学しました。スーパーコンピューター室ではヒトゲノム解析センターDNA情報解析分野の山口類准教授からヒトゲノム解析について、疾患プロテオミクスラボラトリーでは、尾山大明准教授から質量分析計を用いた研究について、バイオバンクジャパンでは、国際先端医療社会連携研究部門の湯地晃一郎特任准教授から、組織バンク、DNAバンク、血清バンクに関する説明を受けました。各施設では、研修団メンバーから活発な質問があり、医科研の活動にたいへん興味を持った様子でした。

今回のご来訪を通して、医科研の先進的な研究の一端が広くフランスの学術・行政機関関係者に紹介されたことで、日仏間交流のさらなる発展が期待されます。



## 2017年1月31日 フランスリヨン大学 教授5名 来訪

2017年1月31日、フランスのリヨンより、エコール・ノルマル・スーペリユール・リヨン、クロード・ベルナール・リヨン第一大学、フランス国立応用科学院リヨン校の教授計5名が、医科研に来所されました。

リヨン大学とは、フランス、リヨンおよびサンエティエンヌ地区に所在する大学が所属する学生総数130,000人以上を擁する大学連合体で、2007年に設立されました。東京大学は2015年にリヨン大学と全学学術交流協定を結んでいます。教授らは、東大の新領域創成科学研究科、分子細胞生物学研究所、医科学研究所とリヨン大学の間で進めている学生交流プログラムのために来訪されました。

当日一行は、武川睦寛副所長、川口寧副所長、田中廣壽副所長、新領域創成科学研究科メディカル情報科学専攻松田浩一教授、同研究科国際交流室松岡万里助教と懇談をし、医科研の概要について紹介を受け、その後、所内見学が行われました。一行は先ず病院7階で東條有伸教授から医科研病院の説明を受けました。次に、スーパーコンピューター室を訪問し、山口類准教授から施設とプロジェクトの紹介を受けました。その後、バイオバンク・ジャパンのDNAバンク、血清バンク、組織バンクを見学し、松田浩一教授から最新の研究内容について紹介を受けました。

今回の訪問で医科研とリヨン大学との結びつきがさらに深まり、学生交流プログラムを活用した学生の交流が一層深められることを期待しています。



## 2017年1月 ガーナ保健省公衆衛生局長、ガーナ野口記念医学研究所所長ら 来訪

2017年1月26日、ガーナ保健省およびガーナ野口記念医学研究所からの訪日団が、医科学研究所を表敬訪問されました。来所された3名は、医科研国際粘膜ワクチン開発研究センター長の清野宏教授が代表を務めるSATREPS「ガーナにおける感染症サーベイランス体制強化とコレラ菌・HIV等の腸管粘膜感染防御に関する研究」の共同研究者です。

当日訪日団は、川口寧副所長、田中廣壽副所長、小澤敬也病院長、清野宏教授と懇談後、所内見学として、MucoRice栽培施設、スーパーコンピューター、バイオバンク・ジャパンを訪問し、最先端の設備や研究内容について説明を受けました。

全体で1時間という駆け足の訪問でしたが、今回の来所が両国の相互理解や友好の一助となることを期待しています。

